

# 令和4年生駒市教育委員会第8回定例会会議録

1 日 時 令和4年8月22日(月) 午前9時30分～午前11時21分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

## 3 審査事項

- (1) 報告第10号 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について
- (2) 議案第23号 令和4年生駒市議会第5回(9月)定例会提出議案の意見について
- (3) 議案第17号 令和4年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

## 4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

## 5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	教育こども部次長	坂 谷 操
生涯学習部長	八 重 史 子	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 伸 行	幼保こども園課長	松 田 悟
幼保こども園課指導主事	喜 多 美 枝 子	幼保こども園課指導主事	湯 川 祐 美 子
こども総務課長	武 元 一 真	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	図書館課課長	錦 好 見
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	石 田 昌 代
学校給食センター所長	古 林 像 一	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育政策室長	日 高 興 人	幼保こども園課課長補佐	福 山 清 美
生駒駅前図書室長	入 井 知 子	教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介
教育総務課(書記)	吉 川 優 香		

6 傍聴者 4名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・生駒ふるさとミュージアムの指定管理者の募集及び生駒市生涯学習施設（やまびこホール）の指定管理者の選定について、八重生涯学習部長から説明  
（質疑）なし

○日程第3 報告第10号 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

・令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、前田教育指導課長から説明  
＜参照：議案書p1、別冊1＞  
（質疑）

イノダ 委員：今年の結果も平均的に高い傾向にあるようだ。それを支えてくださっている教育現場の先生方の努力もあると思う。生駒市の子どもたちの学力は全国でもトップレベルであり、教育現場で進めていただいている様々な取組が反映されていると思う。今回の分析でも細かい部分まで課題を洗い出しているのだから、その点については引き続き取り組んでほしい。一方で、学力以外の部分である自己肯定感や地域社会への取り組み等については、まだ少し課題が見られるかと思う。これらの課題点に共通するのは、根底にある自己肯定感の低さであると考えている。自己肯定感をより高めることができれば、勉強だけでなくその他の学校活動においてもプラスに現れるのではないかと。そのためには、先生方があらゆる場面で子どもたちの良いところを褒めることや、やる気を引き出すポジティブな言葉をかけることが大切であると思う。18ページの「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」という問いに関しても全国平均を下回っているようであるが、失敗は悪いことではない。分析にある「まわりの大人が失敗を恐れず挑戦できる環境を作ることが大切である」というのはその通りである。失敗したらどうしようと感じてしまうと思うが、小中学生の頃の失敗は長い人生で見ると大きな出来事ではないことが多く、むしろより多くの失敗をした方が経験値となり良いことだということを改めて子どもたちに伝えていただきたい。次に質問がある。65ページ「数学（算数）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」について、結果は昨年度と同様であるが、肯定的な分析となっている。7割8割が肯定的な回答であることからこのような分析となっているのか。

前田 課長：その通りである。しかし分かりづらい表記であるので修正したい。

原井教育長：では、一部修正をする。

伊藤委員：生駒の子どもたちは学力が高い傾向にある。しかし、子どもたちが自分の考えをまとめて自発的に活動するような取組が足りていないように感じる。シミュレーションではなく現実に行っている身近な問題や課題について、子どもたちが主役になって話し合うような活動への取組が非常に弱いと感じている。これは学校も家庭も同じ傾向にあり、子どもに考える時間を十分に与えずにすぐに答えを与えてしまっている場面が多いように感じる。親切心がゆえに、子どもたちの自発性を育めない環境になってしまっているのではないか。自発性を伸ばすためには、答えを教える前に少し待ってみることが大切であると感じる。大人が多くのことを教えることで知識は積み重なっているが、48ページの話し合って解決する力が全国と比較し2桁の差が出ている。これから求められるであろう力であるので、大きな課題であると認識してほしい。課題点にあるように、タブレット端末の使用も促進してほしいが、同時に大人たちが黙って待つ余裕が持てるようになれば良いと感じた。私にもできることを考えたい。

中川委員：生駒市の保護者の方々は非常に教育に対する熱が高いように思う。教育の質が高いからこそ、自信を失いやすくなっている側面もあるかもしれない。先生方には、子どもたちを元気付けたり、長い視点を持つことや多様な価値観があることを指導したり、そのような声かけが大切になるかと思うので引き続きお願いしたい。また、11ページの「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか。」とあるが、スマートフォンのルールについては保護者も悩んでいるかと思う。先生方とも相談しながら、教育委員会として何か参考になる資料を作成してみてもどうか。最後に33ページの読書について、全国的にも読書離れは課題であるが、幼稚園でしているような家庭に読書を持ち込む取組等も行いながら引き続きお願いしたい。今回の結果から、教育委員会事務局の日々の努力を見ることができた気がする。

古島委員：3点意見がある。まず1点目、5ページ②の5つ目「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、新型コロナウイルス感染症で活動が制限されていることが影響している可能性があるという記述がある。確かに実際に制限されていることもあるかと思うが、この状況をいかにポジティブな活動やマインドに変えていくかという部分が教員側にも必要であると常々感じている。そしてそれを保護者や生徒たちに伝えていくことで、子どもたちも前に進めるのではないかと思う。現場の先生方がコロナだから仕方ないというような空気を出すと、子どもたちも前向きになれない。学校に行くことが楽しいと思えるような前向きな声掛けを日頃からいただきたい。続いて2点目、5ページ③の2つ目に関して、感じたことがある。先日の学校訪問にて、中学校の方がタブレット端末の活用が少なく感じた。

一方で、小学校の先生方は上手く活用出来ており、スキルの高さを感じた。中学校の先生方も時間がないかとは思いますが、小学校の授業を見に行く等、先生同士が情報交換をできる場を作ってはどうか。まだまだ工夫の余地があり、受験への学びについてもタブレット端末を活用できると思う。最後に3点目、6ページ③の4つ目について、新型コロナウイルス感染症の影響により主体的な学びが出来ていないとある。教育委員会事務局としてグループワーク等の活動について、制限を設けているのか。

前田課長：現在学校では熱中症予防のため、場面によってマスクを外しての活動を推奨している。グループワークについても制限していない。

古島委員：学習指導要領にも記載がある、グループワーク等で培われる対話的な学びは、グループで共同して進めていくことで、お互いを認めあって他者を認めることができる。これは子どもたちの自尊感情や自己肯定感を高めることに繋がる。そのような学びを促進することで数値にも反映されるのではないか。

坪井委員：気になる点が2点ある。まず1点目、全国的なことではあるが、問57や問64から、算数・数学や理科において、普段の生活との繋がりを感じている子どもが少ないようである。生駒市には奈良先端科学技術大学院大学もある。そちらとも連携を取りながら、今後は生駒市の特徴の1つとして挙げてほしい部分である。次に2点目、問7について、昨年度から5ポイント上がっていたことは大変喜ばしい。先ほどから話題に挙がっている自尊心の課題については、保護者も苦勞している部分である。学校での取組について例を挙げていただきたい。

前田課長：数年前に行ったアンケートにて、子どもたちは先生に認めてもらえていないと感じているが、先生方は認めていると認識しているという結果が出たことがあった。その際に先生方には指導を入れており、取り組んでいただいている。アンケートで経過を見守るつもりであったが、途中でこの質問がなくなった。今年になり再び現れたが、やはり先生方は褒めていると認識しているようであった。そのため、本当に褒めているということ子どもたちにどのようにして伝えるのが課題になると思う。今のところは褒め方を工夫する必要があると考えている。簡単に褒めすぎると本当か疑ってしまうかもしれないし、自己肯定感が低めであるが、謙虚であるかもしれない。また、学力が高いことによるプレッシャーもあるかもしれない。このような様々な要因があるかと思われるため、今後は経過を見ながら様々な対策を考えたい。

原井教育長：先生だけでなく、子どもたち同士で褒め合うということも大切である。良いところカード等の取組が自尊心の向上に繋がると思う。

飯島委員：全体としては例年に引き続き学力が高く良いことである。学力以外の点においても、例えば問15「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や

問18「友達と協力するのは楽しいと思いますか」等の項目においても全国平均と同じくらい高い数値で非常に良いことであると思う。この調査の対象は小学校6年生と中学校3年生であり、今小学校6年生の子どもたちが次に答えてくれるのは中学校3年生の時であるため、この時の学年がどのように変化したのかを見るのは小中一貫校でないと難しい。また、今の高い学力を支えているものが、学校であるか家庭であるか、また何が支障となっているのかを把握することが将来の向上のためにも重要だと思う。先生方にも何が要因かをできるだけ日々の教育環境の中で把握していただくように努めていただきたいと伝えてほしい。特に理科について気になる点がある。問64「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」や、問65「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」について、全国平均の80%ほどしか肯定的な回答がないということは、非常に問題であると認識している。理科の学力が低いということであればまだ納得はできるが、学力が高いにもかかわらず現実の生活と結びつけることができないのはなぜか気になる。このような他の地域と比較して弱点となっているところが、子どもたちの理科への関心を高めるきっかけになるかもしれない。こうしたところに指導の重点を向けることで、子どもたちの理科に対する意識が変わっていくかいかないのかを、日々の授業の中で学校の先生方には意識していただきたい。

吉尾委員：ICT機器の利用頻度について、小学生よりも中学生の方が低いとあったが、ある程度柔軟性のある年齢が低い段階でスタートした方が子どもたちの興味や関心がより引き出されるのではないかと感じた。中学生くらいになるとある程度知っているからあえて使わないということもあるのではないかと思う。小学生の頃からタブレット端末を使用している今の子どもたちがこれからどう変化していくのかを見極め、将来的にこのタブレット活用というのがどういうことに繋がっていくのかを子どもたちにも伝えることができればと思う。また、先ほど話に挙がっていた問8について、小学生と比べて、中学生は難しい年頃であり、褒められても受け入れられない年代であるかと思う。褒めるだけでなく、共感や寄り添うことも他者を認めることの一つの方法ではないかと思う。日本人にとって褒めるというのは難しいことかと思う。先生や周りの大人がどれだけ自分を見てくれているか、認めてくれているのかということを実感できるような、声掛けが大事だと思う。また、今回の結果に関しても、課題を多く記載していただいているが、低い数値を伸ばすだけでなく、高いところを認め合うことで他の部分も伸びるかもしれない。先生同士でも取組んだことを情報共有し、認め合いながら進めることのできるような学校教育になれば良いと思う。

次に、理科離れについて、全国的にも課題であると思うが、理科を面白いと感じるようになってもらいたい。

神澤委員：今年度から追加された21ページ問14について、非常に大切な質問であるが結果は低めである。これはあまりうれしくない現状である。SOSの教育については、昨年度から積極的に取り組んでいただいているし、私も手伝っている。しかし現在の子どもたちの自殺件数は非常に高く、全国でも一昨年が過去最高値であり、昨年も2番目の数字となった。今後ともゼロを前提として今まで以上に子供たちの心の健康を考えていきたい。そして、子どもたちの生きづらさを聞けるような学校のシステムを今まで以上に強化していただきたい。この質問項目は、大人たちに何ができるのかを教えてくれる。今後も引き続き取り組んでいただきたい。

原井教育長：結果については、各校にて共有・分析をしていただく。また、今回いただいた意見については、今週末の校長会にて共有したい。

#### 審議結果 【報告のとおり承認】

#### ○日程第4 議案第23号 令和4年生駒市議会第5回（9月）定例会提出議案の意見について

- ・令和4年生駒市議会第5回（9月）定例会提出議案の意見について、松田幼保こども園課長、武元こども総務課長、山本教育総務課長、西スポーツ振興課長から説明  
<参照：議案書p2～p8>

（質疑）

飯島委員：6ページの給食費徴収システム導入委託料について、どういったシステムかご説明していただきたい。

山本課長：現在給食費は、各学校で徴収していただいているが、今後は教育総務課で徴収できるようにシステムを導入する予定である。

#### 審議結果 【原案のとおり可決】

#### ○日程第5 議案第17号 令和4年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

- ・令和4年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について、奥田教育こども部長から説明  
<参照：議案書p9、別冊2>

（質疑）なし

#### 審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 その他

・生駒市立南小・中学校の今後のあり方について、山本教育総務課長から説明

<参照：その他資料1>

(質疑)

原井教育長：前回定例会にてご説明した通り、7月20日に第1回生駒南小・中学校の今後を考える会議を行った。地域の方と一緒に考えていく中で、校区等議論が必要になる点がいくつかあるが、まずはハード面について決めていきたいと考えている。現在生駒南小学校と生駒南中学校は隣接しているが、今後新しく建て替えるにあたって、施設一体型や隣接型等、建物をどのような形態にするか話し合う必要がある。これについては9月の定例会から議題として議論を進めていく予定である。また、本日の午後より先進地視察として王寺北義務教育学校へ行く。義務教育学校となった経緯や成果、課題等を聞いて、生駒南小学校及び生駒南中学校に通う子どもたちにとって、どのような教育の環境が良いかということを確認したい。今回は論点の確認や必要な資料の依頼等、午後からの視察や今後の話し合いに繋がるご意見をいただく場にしたい。

イノダ 委員：市内では生駒北小中学校に次ぐ2校目の小中一貫校ということで、生駒北小中学校の子どもたちや先生方の状況等現状を知っておきたい。また、子どもたちの学びが最優先ではあるが、空間は学びに影響すると感じている。これまで様々な学校見学に行かせていただいているが、ゆとりのある空間が先生や子どもたちにとっても学びやすさに繋がっていると感じている。そのような観点から、施設一体型にすることでどの程度空間にゆとりが持てるのか、また、体育館の有効活用によってどのようなメリットがあるのかについて、議論を深めたい。

原井教育長：生駒北小学校及び生駒北中学校においては、平成28年度から小中一貫校として開校している。空間の使い方を観点にした資料の収集をしていきたい。

伊藤 委員：義務教育学校という言葉が多く出てきたが、どういったものか知りたい。

原井教育長：王寺北は施設一体型、王寺南は施設分離型である。今年度は、ハード面を進めていきたい。

飯島 委員：生駒北小中学校が施設一体型となって、期待されたが上手く実現できなかったことや、期待通りだったことが知りたい。

原井教育長：視察も含めてか。

飯島 委員：その通りである。

吉尾 委員：通う子どもたちがストレスなく通える学校作りを意識して、丁寧にスタートを切りたいと考えている。

中川 委員：地域や保護者、先生方の意見をまとめていただいた上で、教育委員会の展望をまとめていただいて、メリットやデメリットを考えていきたい。

原井教育長：これから7月の話し合いの議事録がホームページに掲載されるので、地域の方の意見も見ていただきたい。

・市内小中学校における熱中症発生状況について、前田教育指導課長から説明  
(質疑)

神澤委員：救急搬送になる場合の基準はあるか。

前田課長：自分で立つことができない、嘔吐という症状があったため救急搬送となった。

神澤委員：場所や時間帯は分かるか。

前田課長：様々である。部活動や昼休みに体を動かしてという午後の事案もあれば、朝に学校へ登校した段階で体調が悪いという場合も数件あった。また、体育の授業中の場合であっても午前中、午後と両方発生している。

神澤委員：本人も保護者も十分に気を付けていただいているかと思うが、数字を見て驚いた。重篤でないため安心したが、件数が減るように取り組みたい。

前田課長：今回、熱中症の疑いとなった事案は全て報告していただいている。そのため中には、病院へ行った結果、胃腸炎や貧血、朝食を食べていないというような別の原因であったものも含まれている。

神澤委員：昨年度と比較して件数はどうか。

前田課長：昨年度より増加している。しかし、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により部活動に制限があったため少なくなっていたかと考えられる。

神澤委員：熱中症に関する研修等、先生方は受けているかと思うが、保護者や地域の方にもそのような研修が受けることができると良いと感じる。

原井教育長：日々熱中症かもしれないという危機感を持っていただきたいと考えている。

古島委員：学校または教育委員会として、子どもたちに対して熱中症の講習や体験できるような機会等はあるか。

前田課長：事務局で行っているものは夏の研修くらいである。中には部活動の中で救急対応の研修を行っている学校もある。また、健康診断の際に保健指導を行っていただいている。

原井教育長：子どもたち自身が、なぜ水分を取る必要があるのかを理解してもらい、自分の体は自分で守るという意識を育てないといけない。

神澤委員：SOS関連の話であるが、子どもたちが自分の心と体の健康状態を学ぶことの大切さ、自分の命や体を守ることができるような教育が必要である。今後重篤な事態が起きないような、体制を作ってくれるように取り組んでいただきたい。

古島委員：先ほどの養護教諭から指導していただいているという件について、私は現在教育大学に通っており、その中で養護教諭の方と話す機会がある。その中で養護教諭の仕事は大変多岐にわたっていると感じた。また、緊急時の

対応等の業務の責任も重い。学校マネジメントとして、改善できないかと研究している先生もいる。共有したい。

中川委員：1点安心している点がある。これだけの件数が出ている中で、事務局が数字を公表し議論し合えていることである。常に最悪のことを考えて対処するというのが大事なので、今後発生件数は減らないかもしれないが、それはしっかり取り組んでいただいているということであると思う。

・新型コロナウイルス感染症発生状況（令和4年度1学期分）について、奥田教育子ども部長から説明  
（質疑）なし

・令和4年9月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明  
（質疑）なし

○閉会宣告

午前11時21分 閉会